

インドネシアの伝統染織布





あいさつ



インドネシアは1万7千余の島々からなる国で、様々な部族が存在します。そのような国で多くの伝統染織布があります。今回注目したのがスンバ島の伝統染織布です。スンバ島の伝統染織布は一風変わった紋様が特徴です。今回は動物や頭蓋骨などを紹介します。

スンバ島について

観光地として有名なバリ島のさらに東方にある島です。サバンナ気候で農業に適さないため馬の牧畜が盛んです。現在でも「マラブ」と呼ばれる土着の精霊信仰が残っています。

『デジタル大辞泉』 参照





頭蓋骨!?

この布では頭蓋骨が織られています。この紋様を「スカルトツミー」と呼ばれています。これは20世紀初頭頃まで、スンバ島での部族間の戦い時に首狩りを行う風習があり、敵の頭部を飾った首架を表しています。戦いの勝利を祈願する紋様だったそうです。



海老

海老は脱皮のたびに成長するので、その生命力の強さから命の永遠性を象徴しています。生命の復活・不老長寿を表すモチーフとして、古来から好まれてきました。



馬

馬は最も神聖な動物として崇められ、昔は王侯貴族だけに許された文様でした。今は戦の際の勇気や富の象徴そして死者が天国へ行くためのお供として表されてきました。



鶏（にわとり）

鶏は天国の象徴としてスンバ島を代表するモチーフの一つです。また、鶏は亡くなった人の魂の水先案内人とも考えられています。雄の鶏は力強さを表しています。



龍（ドラゴン）

スンバ島のイカットには様々な形が登場します。そのスタイルは2本足の物もあれば、4本足の物、足が無い物に分かれています。足の描かれていない龍はインドから伝来したと言われていています。4本足の龍は中国から輸入された磁器の模倣だと言われ、比較的近年になってから使われ始めたといわれています。



鹿

鹿は、勇敢さの象徴と考えられております。貴族階級が宗教儀式として鹿狩りをしていたため、文様として織り込まれることがあったと考えられています。

参考文献

- スンバ島イカットについて～アジアの織物、バリ島シルバー＆カレン族シルバーアクセサリー、民族アートの通販ショップ～アジアの織物 PANDAN TREE
- 『アジアの布』 出版社：文化出版局 著者：小川圭 発行年：1999年
- 『修羅と伝統染織布』 出版社：天理大学出版部 担当：吉田裕彦
発行年：1980年